

令和元年度千葉県公立高等学校入学者選抜方法等改善協議会（第3回）【概要】

日時：令和元年11月18日（月）午前10時から正午まで

場所：県庁中庁舎9階 企画管理部会議室

1 出席委員（敬称略・名簿順）

佐藤 智司、河名 聡彦、佐藤 宰、松村 智明、市東 努、安江 博昭、中澤 泰藏、五十嵐 正憲（委員長）、小熊 隆（副委員長）、磯野 和美、岡部 成行、永井 豊和

2 次第

（1）開会のことば

（2）県教育委員会あいさつ

（3）委員紹介

（4）報告

①令和元年度千葉県公立高等学校入学者選抜方法等改善協議会（第1回）の概要について

②令和2年度千葉県公立高等学校入学者選抜実施要項について

③令和2年度千葉県公立高等学校入学者選抜における選抜・評価方法の公表について

④令和元年度千葉県公立高等学校入学者選抜方法等改善協議会専門部会からの報告について

⑤その他

（5）協議

①令和3年度千葉県公立高等学校入学者選抜日程（案）について

②令和3年度千葉県公立高等学校入学者選抜以降の選抜方法等について

③その他

（6）閉会のことば

3 協議内容（→：事務局）

①令和3年度千葉県公立高等学校入学者選抜日程（案）について

→ 令和3年度入学者選抜の日程について、前回示した案Aと案Bとともに案A'と案B'を新たに提示した。

・それでは、御意見を伺いたい。

・前回の意見を反映させた余裕のある日程に感謝する。ダッシュのある案の方がそれぞれ余裕のある日程で、十分、進路指導の時間が確保できる。A'とB'を比較すると、現状では私立後期の発表は2月5日から7日が多い。A'は発表と出願が重なるので、中学校側としては厳しい日程。その辺りを考慮してほしい。

もう1点、出願について、もし変更できるなら、出願を2日半取ってもらえるとありがたい。理由として出願の集中を避けることができる。2日間の日程だと万が一のことを考えて、初日に集中する。生徒が長い間待たされて体調を崩すことも心配なので、余裕を持った日程で（2日半）でやってもらえるとよい。生徒たちの体調や精神面のことを考え、2日半でやってもらえるとゆとりのある出願ができる。

・中学校側の委員から、2点の要望があった。

・高校側だが、余裕がある日程にしてください、ありがたい。志願変更を含めた日程と本検査の後の採点を余裕をもって丁寧にやりたいという気持ちがあるので、できれば検査の後の日程にもう少し余裕がほしい、採点を丁寧にやる余裕がほしいというのが要望。具体的に言えば、記述式の問題にも対応できる日程の余裕が欲しいというのが要望。2点目は質問だが、出願2日目の終了時刻の想定を教えてください。個人的には志願変更が大事だと考える。一本化により志願変更で動くことが予想される。この日程で行くと、出願受付結果の志願者数の発表はいつになるか。その結果を見て中学生は志願変更の事務手続、先生への相談を始める。そこを考えておく必要がある。

→ 受付時刻は未定だが、現行の選抜では16:00までである。志願者数の発表は、現行の前期では、受付の翌々日に新聞発表がある。新制度については、これから決定する。

・今回は休みが2日あるので、翌々日でもいいが、カレンダーの問題で、日程的に厳しい年もあるかもしれないので、2.5日にすれば、余裕が出てくるのではないかと。余裕のある2.5日の日程を要望する。

・案A'を見てほしい。受付2日目が8日の月曜日になっている。翌々日の新聞発表というと10日になる。その日1日指導して、志願変更が建国記念日の翌日というのはどうなのかなと思うがいかがか。

・公立中学校は3月9日から13日の週で卒業式を計画している。第2次募集の検査日は、卒業式の計画を考え、検討してほしい。

→いただいた意見を踏まえて、先々のことは状況を見ながら検討していく。

・令和3年度入学選抜日程については、本協議会での意見等を踏まえ、12月の教育委員会会議で決定し、年内に公表されるということである。

②令和3年度千葉県公立高等学校入学者選抜以降の選抜方法等について

→専門部会において、「令和3年度千葉県公立高等学校入学者選抜以降の選抜方法等について」を協議していただいたので、専門部会の主査から説明する。

・生徒の多様な能力・適正・努力等の優れた面を多面的に評価することを選抜の理念とし、「学力検査の成績」、「調査書の全学年の評定の合計値及びその他の記載事項」、「各高等学校において実施した検査の結果」等を選抜の資料とし、各高等学校が総合的に判定して入学者の選抜を行うものとされている。また、選抜の資料は原則として得点（数値化）するものとし、各高等学校は、選抜の手順、各選抜資料の配点等を定め、選抜・評価方法として公表するとされている。本年度の第1回の協議会において、各学校の特色が活かせるような選抜を実施することが望ましいとの意見があった。専門部会で、学力検査の結果や調査書、各校が実施する面接や適性検査など、既に決定している選抜のための資料をどのように活用することで各校の特色を出していくことができるのか、という観点で協議をした。

・学力検査について

資料はないが、現在、千葉県では、すべての学校で共通の学力検査問題を用いている。この学力検査問題については、現在用いている共通問題の難易度に関する意見も出たが、各校の特色を出すという観点からは、2つの考えが出された。

1つ目は、難易度の異なる問題を2種類用意して、各校がそのどちらを用いるか選択する、という案である。例えば、現在と同様に基礎的事項から思考力を問うものまで幅広い出題の検査問題に加え、もう1種類、基礎的な事項を減らし、思考力を問う出題を増やした難易度の高い検査問題を用意して、各校が、そのどちらを用いて学力検査を実施するかを、選択するというもの。これについては、中学校の指導として、学習指導要領に則り、基礎的事項をしっかり習得できるように学習指導を行っている。生徒の志望校により問題が異なると全体での指導がしづらい。などの意見があった。

2つ目は、5教科の学力検査は、現在同様に、全校で共通の検査問題を用いる。そして、2日目に各校が面接や作文、適性検査などを選択して実施する検査において、「1時間程度の思考力を問う出題を中心とした問題」の選択も可能にするという案。

・選抜方法について

選抜に用いる資料は原則として得点化することとなっているが、それぞれの比率、すなわち配点を工夫することで、各校の特色を生かすことができるという意見があった。学力検査は、500点で実施ということだと思うがこれに対して、調査書の評定値、英検や生徒会活動などの調査書記載事項、面接や作文などの各校が実施する検査の満点の設定により、特色を出すことができるという意見である。具体的には、「学力検査の成績を重視する選抜」、「学力検査以外の項目に重点を置く選抜」のような設定により、特色が出せるというもの。さらに、ある学校において、一定の割合、例えば80%を「学力検査の成績を重視する選抜」で選抜して、そのほかの割合、例えば20%を「学力検査以外の項目に重点を置く選抜」で選抜することで、様々な特徴を持った生徒が互いに刺激し合い、活気ある学校づくりにつなげることもできるであろうという意見である。ただし、調査書の記載事項や面接や作文など各校が実施する検査の満点、配点については、中学校での3年間の学習の成果として評定値の合計が135点であることなどを踏まえて、バランスに十分配慮する必要があること、また、中学校においても、学校による配点の差が大きすぎると、制度が複雑になり中学生の学校選択や進路指導がしづらくなることなどから、県で最低値や最高値を設定することが必要であるという意見が出た。なお、学力検査の点数については、現在も専門学科、すなわち理数科や外国語に関する学科では、傾斜配点、すなわち、数学や理科、英語などの点数を1.5倍や2倍して取り扱っているが、学校、学科の特徴を出すという観点からは、続けることが望ましい。

・調査書の様式について

専門部会では、選抜における調査書の活用状況の観点から協議した。「教科の学習の記録の選択科目の評定」については、ほとんどの中学校で実施していないこと、実際の選抜にも活用していないため、必要はない。中学校評定合計平均値についても、新制度においては、使用しないことから、必要はないなどの意見があった。その他の欄については、現在においても、各高等学校がそれぞれの状況に応じて活用していること、

全県、共通の様式でなければならないこと、何よりも新制度の理念である「生徒の優れた面を多面的に評価する」ためには、できる限りの情報を用いて選抜することが必要であることから、必要であるとの意見があった。なお、部活動の記録や総合所見については、調査書は、選抜の資料として用いるという観点から、県教育委員会が必要事項を簡潔に記すよう例示や指導をすることが必要であるとの意見があった。

- ・意見があったらあげていただきたい。まず、難易度の違う問題についていかがか。

- ・生徒にとっては、公平・公正という点から心配がある。

- ・学力検査問題に難易度の高い問題を入れて、学校がA・B問題を選ぶ形になると思うが、生徒の中には、こっちの方がわかるのに、学校が異なる問題を指定することもあるし、間違えて解答してしまうことも心配される。学校はどちらを選べばよいかも心配なのではないか。選抜方法について、骨組はどれになるのか。「学力検査の成績を重視する選抜」、「学力検査以外の項目に重点を置く選抜」、その両方を取り入れる選抜のうち、学校ごとに違いが出てくるので、受検校によって変わってくる。志願変更で学校が変わったときに問題が変わって困ることもある。現状のやり方とは異なるので、一つの検査にいくつもの方法があるのは、混乱するかもしれない。骨組みを固めてほしい。

- ・問題の選択は反対である。中3生のクラス分けになる気がする。難易度の高い問題を入れて、その部分で差をつければよい。差別化につながるので、同じ問題でよいと思う。

- ・特色を出すことはよい。難易度の異なる問題は子供の不安が出てしまう。何をやればよいかで困惑する。パターンを変えないと、行きたい学校を選べないこともある。調査書、各学校の検査の内容で特色を出せばよい。

- ・問題A・Bを出すということは、中学校側からすると、その対応をさせることにつながる。中2からクラス分けにつながる。ついていけない子はどうなるのか。一つの検査問題で別で特色を出すもよい。

- ・2種類の問題は指導の困難さが出る。難易度の高い問題は別の指導が必要となる。中学校の学びを大切にするという理念に反するのではないか。一見すると個に応じた受検制度だが、デメリットもある。

- ・選抜方法についてどうか。

- ・調査書の95プラスマイナスという、現行の算式1の算出方法について教えてほしい。

→ 調査書の135点について、中学校ごとに評定値にバラつきがある。これを95に合わせるための算式である。

- ・令和3年度以降の入試ではなくなるということなのか。

→ 令和3年入試から算式1は使用しない。

- ・県の定める算式1は、使わない。調査書については、説明があった。調査書全体について、意見をいただきたい。

- ・公正公平であるなら、「行動の記録」の基準があいまいである。中学校側の判断で付けており、多く付けたり、少なく付けたりしている。これを評価に加えるのはどうか。「総合所見」についても、例示があると書きやすい。主観に頼りがちな部分を客観的にできるようにしてほしい。公正公平にしてほしい。

- ・「行動の記録」「総合所見」客観的に評価できるようにとの意見があった。「総合所見」については主査からの説明があった。

- ・部活動の記録や総合所見については、調査書は、選抜の資料として用いるという観点から、県教育委員会が必要事項を簡潔に記すよう例示や指導をすることが必要であるとの意見があった。

- ・専門部会から「総合所見」についても、客観的にかけるようにということであった。部活動の記録ということだったが、「行動の記録」などにも、主観的な評価がみられる。専門部会では、「教科の学習の記録の選択科目の評定」については、削除してもよいとの意見だったが、専門部会の意見に基づいてということではいか。他に、確認したいこと等あるか。

- ・令和3年度は、今の中学2年生が受けることになる。日程は年度内に公表を目指しているということだが、選抜評価方法については、いつを目途に公表するのか。実施要項、選抜要項が、6、7月に例年のようにできるのであれば、3年生は動いているので、少し遅いのかと思う。大きな変革となるかと思うので、中学校への配慮が必要でないか。

- ・日程以外についても、早めに教育委員会で決めてほしい。

③その他

特になし。